広告

輝く女性の力になる日商簿記

簿記は、企業の活動を適切かつ正確に情報公開するとともに、経営管理能力を身につけるため必須の知識です。社員一人一人が、経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする簿記スキルの習得は、企業力の強化につながります。商工会議所では、経営等支援の一環として、企業現場で求められる実践的な人材を育成するとともに、そのスキルを評価・認定する検定試験を実施しています。日商簿記検定は、1954年の開始以来、累計約2500万人が受験しており、時代を問わず多くの企業が社員に求める資格の上位に位置しています。この度は、女性が企業社会で活躍するために、簿記が如何に役立つかについて、オピニオンリーダーの皆さんにお聞きしました。

商工会議所検定試験

簿記資格取得は女性の再就職の大きな味方

株式会社キャリア・マム
代表取締役　堤　香苗　さん

Profile　堤 香苗　Tsutsumi Kanae
1964年、兵庫県出身。早稲田大学第一文学部卒。自らの体験から、育児に追われ、社会から隔絶されている女性たちが、特技や個性を活かし、再び働くことができるよう、テレワークや女性のキャリアに関する仕組みを整え、1996年、キャリア・マムを創業、2000年に株式会社化。事業活動を通じて女性の復職の容易活動も行う。「平成26年度女性のチャレンジ支援賞（内閣府）」をはじめ受賞多数。

ビジネスには簿記の考え方が必要

―簿記の重要性を指摘されていますね。

自分で事業をするなら、少なくとも簿記3級の知識は必要ですし、資格を取れば大きなプラスになります。私自身、経営者として強く実感するのは、公認会計士さんや税理士さんに経理を見てもらうにしても、簿記の考え方を知らないと、言われたことが、なぜそうなのかがわからない、ということです。

各地の商工会議所などで簿記の講座が行われていて、3級なら30時間～40時間程度の講義で勉強できる内容なので、ぜひ取得することをお勧めします。

資格は選ばれるための武器

―資格を持っているとどんな時に役立ちますか？

何より自分の行動に自信が持てます。今までは自己流でやってきたのが、検定試験に受かることで自信がつきますし、将来、人に教える立場になった時にも活きてきます。資格を持っている人は基本が身についているので、自己流でやってきた人に比べて伸びしろがあります。在宅の仕事をお願いする時、キャリア・マムでは面接をしていません。候補の人が複数で、「どちらの人にお願いしようか」という時には、他の条件が大差なければ、その仕事に関係する資格を持った人にお願いします。

女性が結婚後に再就職する時など、人生の節目で資格は、選ばれるための武器であり、何かが「ちゃんとできる」ことの拠り所なのです。

資格を持っていることは、何かが「わかる」ことであり、「わかること」と「できること」は違います。でも、「わからない」のに「できる」ということはありません。また、わからないままにしておくと、いつか、大きな事故につながりかねません。

女性がビジネス感覚を身につけるには簿記が一番

経済評論家　勝間　和代　さん

Profile　勝間 和代　Katsuma Kazuyo
1968年、東京都生まれ。経済評論家、中央大学ビジネススクール客員教授。早稲田大学ファイナンスMBA、慶応大学商学部卒業。当時最年少の19歳で会計士補の資格を取得、大学在学中から監査法人に勤務。アーサー・アンダーセン、マッキンゼー、JPモルガンを経て独立。現在、株式会社監査と分析取締役。ウォール・ストリート・ジャーナル「世界の最も注目すべき女性50人」選出。

簿記は女性の活躍を支える

―女性が活躍するうえで簿記は役立ちますか。

女性が社会や企業で活躍するには、「この人がいてありがたい」と思われることが必要です。簿記の知識を活かせば、「どのように費用が発生し、どのようにお客様から回収するか」など、ビジネスモデルの議論ができるようになります。固定費や粗利、顧客数などを念頭に、損益分岐点を意識してビジネスをするのが本来の姿です。でも現実には、それができる人材は限られていて、女性の場合はさらに少ないと思います。

こうした、ビジネスに対する皮膚感覚を身につけるとか、女性にとっては必要で、それを磨くには簿記の習得が一番です。簿記は細かな配慮を必要とする一方で、体力勝負ではないので、女性が勉強するのに向いていると思います。

簿記は「小さなMBA（経営学修士）」と言ってもいいと思います。MBAを取るには数百万円単位のお金が必要ですが、簿記であれば低定受験料と学習のための費用で済みます。実際、1級や2級を持っていれば就職や転職の時にかなりアピールできます。

2級取得でビジネスがよく分かる

―簿記は、できれば2級まで勉強するほうがよい、とおっしゃっていますね。

英語が話せないと外国の方と話ができないように、簿記を知らずに財務諸表は読めません。勉強するなら、商業簿記に加えて工業簿記が入る、2級まで取得することをお勧めします。商業であっても、カスタマイズなど、半ば工業的な仕事が増えています。社内で製造プロセスを持つことによって、どのように資産価値が増減するのか、帳簿上どうつながっているのかがわかったほうがいいと思います。

いま求められているのは簿記ができる人材

公認会計士　平林　亮子　さん

Profile　平林 亮子　Hirabayashi Ryoko
1975年、千葉県生まれ。1998年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒。大学3年次に公認会計士試験に合格。太田昭和監査法人（現新日本有限責任監査法人）を経て、2000年、平林公認会計士事務所開設。2007年、女性士業プロジェクトSophia Netプロデュース。2010年、中小ベンチャー企業をサポートする士業ネットワーク、アールパートナーズ結成。

数字に対する意識が変わる

―企業に簿記の重要性を説いているのはなぜですか。

経営者の場合、簿記を勉強すると取引先や銀行、税理士と話をする際の「一助所」がわかる、というのが一つの理由です。また、決算書で売掛金の金額を見た時に、会社の状況からして「過大ではないか」と感じることができれば、架空売り上げ等の不正を発見できるかもしれません。

もう一つの理由は、簿記を学ぶと数字に対する意識が変わるからです。私が研修の講師を務める時には、できるだけ実感のある状況を設定するようにしています。「工場にはどのような機械がありますか？」「○○の機械が3台あります」といったやり取りをするうちに、参加者が「うちの会社のROA（総資産利益率）を改善するには、あの資産は不要」などと考えるようになり、意識の変化が見えてくるのです。

決算書は毎日のビジネスの積み重ね

自社の決算書を見て、売り上げや利益をあと○○円大きくしたかった、と思うことがあるでしょう。もちろん、後から数字を変えることはできません。でも、決算書が毎日のビジネスの積み重ねであることを理解できれば、個々の取引や、その基盤となる契約を見直すことにつながります。

例えば、お客様に対してサービスを提供する場合、年間契約なのか、案件ごとに代金をいただくのかによって、決算書に集計される売上の金額が変わってくる可能性があるのです。

また、簿記の知識があれば、今は就職に有利だと思います。中小企業や会計事務所で経理関係の人材ニーズが高まっていて、あちらこちらから「平林さん、簿記ができる人、誰かいない？」とよく聞かれます。

女性にとって簿記は生涯役立つスキル

こるどん株式会社
代表取締役　後藤　百合子　さん

Profile　後藤 百合子　Goto Yuriko
1963年、静岡県生まれ。早稲田大学第一文学部卒。公益法人、マーケティング企業勤務を経て独立。その後、日系商社に入社し香港・マカオ・中国本土で営業・生産管理業務に従事。1998年、家業継承のため後藤製紙株式会社（現こるどん株式会社）入社。2000年、代表取締役就任。2012年、シンガポールに現地法人を設立。

経営者は簿記を学ぶべき

―簿記と出合ったのはいつ頃ですか。

家業を継ぐことが決まった時に、経営者として決算書を読む必要ができたため、父の勧めで、富士商工会議所（静岡県）の講座に通って簿記3級を勉強しました。この時の勉強はそこでも役に立っています。経営者は、自分で決算書類を作らなくても、出来上がった書類を読む力、少なくとも、「おかしな数字」に気付くことが必要です。

簿記は人生に不可欠なツール

―社会に出るためには簿記を学ぶべきだと。

人生の重要な場面で、お金から離れて生きていくことはできませんから、社会に出る前に簿記を学ぶべきです。

また、簿記は、単にお金を管理するための方法ではなく、世の中を自分で分析し、理解して、行動するための道具です。

そのため、私は、商業高校だけではなく、普通高校であっても工業高校であっても、すべての高校生が、選択授業として簿記を学べる環境を整えるべきだと思います。

簿記は、現代を生き抜いていくために必要不可欠なツールです。簿記を勉強すると、お金を通して、それまでは持っていなかった「ものの見方」を身につけることができます。これがあるとないとでは、人生がまったく違ったものになります。

簿記は「一生もの」ですから、高校生の時にはわからなくても、社会人になってから、「この知識が必要だ」と思った時に学ぶ、ということでもいいと思います。私が参加した簿記講座にも、幅広い年齢層の方が参加していました。

大事なことは、若いうちから誰でも簿記を学べる環境を整えておく、ということです。

The way to be full of life.
～あなたの挑戦が、新たな可能性をもたらす～

「日商簿記ー1グランプリ」（1級試験のチーム戦）　参加者募集中
https://links.kentei.ne.jp/boki-1/

「日商簿記ー1グランプリ」メイン・イメージ
『劇場版 ソードアート・オンライン ―オーディナル・スケール―』（2017年春 全国ロードショー）

資格取得に挑戦し、自らの未来を切り拓こう
商工会議所の検定が実力を証明します
企業が求める資格、第1位※
世界で通用するビジネススキル
11月試験 全国の商工会議所で申込受付中
日商簿記（1級～4級）
〔1級～4級〕11月20日(日)　〔2級～4級〕平成29年2月26日(日)
※リクルートエージェントのホームページ「企業が求める資格ランキングトップ10」から引用

7,000万人※の受験実績を誇る産業界の信頼ブランド
商工会議所検定
商工会議所が実施する検定試験は、全国統一の基準の下で、年間約80万人（2015年度実績）の方々が挑む大規模なもの。年齢や業種を問わず幅広い受験者層の方々が、実社会で活躍するため、また、就職力を高めるためにチャレンジしています。※昭和19年からの累計受験者数

お問い合わせは　日商簿記　検索　http://www.kentei.ne.jp
検定情報ダイヤル（ハローダイヤル）03-5777-8600
受付時間 8:00～22:00（年中無休）